

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202254		
法人名	株式会社 イッセイ		
事業所名	グループホーム 平和		
所在地	静岡県静岡市清水区西久保一丁目13-26		
自己評価作成日	平成 28年11 月26 日	評価結果市町村受理日	平成 29年 1月 24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	平成 28年 12 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に密着した施設を目指し10年以上が経過しました。自治会活動・バザー・地元こども園児の慰問や運動会見学・地元有志による節分・ハロウィンイベントの参加と地元との交流が盛んに行われている。自然と地域の要介護高齢者の入所が増え面会に地元住民が訪れることも増えてきている。又、地域の高齢者が集まるデイサービスに参加したご利用者が長年、疎遠になっていた親戚に再会し楽しい時を過ごすこともできたのも地元住民だからこ所住み慣れた地域で暮ら続ける良さが出てきている。バザーでは、地元の個人営業店が出店して下さり売り上げだけでなく祭りごとの少ない地域に毎回楽しみにしていると住民からの声を聞きホームが、着々と根付いている様子が伺えるところである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商業地区の一角に位置するホームは、温かみの感じられる外観であり、道を隔てた向かい側には、お店が並び生活しやすい立地にあります。平屋作りの施設は中庭を囲むように2つのユニットがあり、日が差し込む開放的な空間と年間を通して、配慮の行き届いた環境が整備されています。地域の社会資源の一つとして地域住民からの理解と協力が得られており、保育園や特別支援学校の生徒が定期的に訪問しています。「人としての尊厳」の考えのもと自立支援に繋げ、主治医・家族・職員の連携にて看取りケア対応が行われており、家族からの信頼を得ています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれたオープンな施設であるよう地域との交流(自治会活動・バザー・運動会・S型デイサービス等)に管理者、職員と協力しながら活動している	理念は玄関に掲示されパンフレット等でも示されている。地域との関わりの中で暮らしながら、最期まで人としての尊厳を保つ理念を掲げ、年2回のバザー等にて施設を開放し、職員と共に利用者がコロッセ作成・販売する等を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長きに渡りボランティアで地の神様である神社の総代を勤めたり・今年、自治会の班長として自治会活動をしている	西久保の鹿島神社総代や自治会への加入参加をしている。また、清水特別支援学校の清掃活動を毎月定期的に受け入れる等、地域の一員として交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム周囲は孤立した独居老人が多く民生員に協力体制を敷いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	特に防犯対策では、地域住民や民生員さんからの助言や提案を頂き情報を職員に周知させたり実行している	不審者事件等の影響から、運営推進会議等で検討した防犯対策を実施している。刺叉の設置や防犯対策訓練・防災対策訓練等を行い、安心出来る場所作りを心がけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員さんが、1ヶ月に1回訪問してくださりその時々でのホームでの様子をお話させていただいている。	地域と福祉の連携会議等の参加を始め、市の介護相談員による毎月の訪問を受け入れている。顔の見える協力連携を心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関に施錠はしていない。言葉による拘束にも注意を向けている	玄関や窓は誰でも自由に開け閉め出来る状況となっている。「身体拘束0宣言」は行っていないが、出前講座等を利用し、身体拘束しないケアについての職員への意識向上とスピーチロック等に配慮した接遇に心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年、高齢者虐待についての講座を職員の2/3が受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年成年後見・財産・相続についての講義をディスカッション方式で外部者を招き職員共々受けている。成年後見制度を利用しているご利用者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談、入居時の契約で時間をかけてお話をさせていただいている。改定等は、書面で行っている。毎月の介護記録のコピー送付の際に送り状に不明・疑問点は、気兼ねなく職員にお話くださるよう伝えられている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議や介護相談員さんの来所時にお話をさせていただいている。助言を頂くこともあり運営に向けて前向きに検討している。	地域運営推進会議に出席しており、また議事録等から、意見・要望の改善に向けた取り組み等が確認できる。定期的に入る外部の目として介護相談員との連携を行っている。訪問時やバザー等のイベント時に家族より意見等を聴く対応をおこなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々暮らしの中で職員の意見や提案に耳を傾けるようにしている。実行可能な限り提案を受け入れている。	年に2回、定期的な個人面談を社長・所長を含め行っている。管理者が現場に出て話しやすい環境や関係性を保つ対応を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与支給で個別に面談している。働きやすい環境作りは常に念頭に入れることは心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年は、介護福祉士試験受験に必要な実務者研修を2名の職員がうけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流は、困難のため本年は、認知症実践リーダー研修を受けいれ他事業所職員と交流する機会を設けることができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談をご家族・ご本人と行い聞き取りを行ったり事前に承諾をもらい担当ケアマネジャーから情報を頂いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談・入所前相談・自宅訪問・施設訪問を行うことで早期の関係作りを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前にご本人にお会いしている。身体機能の低下が見られたご利用者に入所後の転倒防止の為、歩行器を購入又はレンタルしていただいた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者個々の意欲・残存能力・体調により調理や衣類の整理等をともに行うように心がけている。当ユニットには介護を受けていると思っていないご利用者に対しては言動や足らない部分の支援に尊厳を損なわないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係が疎遠なご利用者が多い中で成年後見人立会いの下で甥っ子を呼び最期の支援をお願いしたケースがある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	職員付き添いの素で地域の行事に参加し昔馴染みの人との再会を果たしている。10年来の理容師が定期的にカットに来てくださっている。	利用者の外出に対して家族宅への宿泊、また法事やお墓参り参列等の調整を行っている。ハロウィンやクリスマス、節分等の季節行事に加え食材の買い物等生活の延長上でのサービスを心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	寝たり、起きたりのご利用者が多い中で隣ユニットで行われている体操にお誘いし隣のご利用者と交流している。閉じこもりがちなお利用者に訪室し声を掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今でも退所したご家族がホームに近況報告に来てくださる。現在、リピーターのご利用者や退所したご利用者の紹介で入所された方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	寝たり起きたりの生活が多くご自分で歩けるご利用者には、ご本人の意向を大事にしながら外出・散歩にお誘いしている。	利用者個人の意思を尊重し、出来る事に焦点をあてたアセスメントを行いプランに落とし込んでいる。その日の体調により車椅子を利用したり、日程を変更する等柔軟な対応を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴・家族関係についての把握は、事前情報としてミーティングを行い職員周知を図る。入居後は、ご利用者とのかかわりご家族とのかかわりの中から新たな情報共有できる場としてカンファレンス・業務日誌への記入・引継ぎを利用		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起きていて疲れてしまい食事時間に寝てしまい十分に食事が取れないご利用者もいる。食事の摂れる力を中心に考え離床時間を決めているご利用者もいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1～2回のミーティングでは、モニタリング、課題、介護サービスについて話し合い職員、家族・ご利用者の希望をふまえながら実践に即したケアプランをたてるようになっている。	利用者の意向や日常の様子を家族に伝えながら本人家族の希望をふまえ検討しニーズ等を介護計画に反映させている。定期的な会議にてモニタリングと評価を同時に行っており、計画への反映と周知を行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1～2回のミーティングでの話し合いや毎日の業務日誌で記載者の気づきがあれば記入し情報共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する心身の状況は画一的な対応は難しく暫定的にプランを変更し対応・評価し定期的なミーティングで見直しされることがある。暫定プランの素は、職員間でのアイデアが出される。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館では月に2回地域の高齢者の集まるアクティビティ活動へ参加させていただいている。地域のボランティアさんの協力を得ながら参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特別なことがなければ入所とともに訪問診療医に主治医を変更していただいている。内科以外は、かかりつけの歯科・皮膚科にご家族同行のもとに受診していただいている。最近では、受診が大変になってきてしまい待ち時間の少ない皮膚科医・受診に楽なバリアフリー構造の歯科医に変更している。	本人・家族の希望により主治医の選択を行っている。訪問診療医師が薬剤師、看護師と共に訪問し個々の状況を把握しており介護と医療の連携が密にとられている状況あり。月に2回程の往診に加え、夜間等も含め24時間体制が整っており、緊急時も含め役割分担がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	業務日誌、引継等で伝達体制をとり血圧・熱・食時・排泄等で相談しなければならないことは、当日ホーム長に相談しホーム長から指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	最期まで此処で過ごされる方も多く今年度は、入院したご利用者はいない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設から看取りを取り入れていたので市の実地指導を受けた後より入居するご利用者、ご家族から重度化した場合の介護方針を書面で同意を頂いている。	入所時とターミナル期の2回に分けて説明・同意を行っており、家族や医師、介護職員との連携がなされている。出来る限りの対応を考慮し、終末期の配慮・対応がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の介護でご利用者の体調に異変があれば安静・バイタルサインチェックを行いホーム長への連絡を行う。事故発生時は、事故報告書の記入を義務づけ何をすべきかの実践教育を先輩職員からも受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は、年2回夜間を想定した訓練を行っている。1回は、地域の消防署立会いのもとで職員の行う防災救助訓練を観ただきご教示いただいている。地域の防災訓練では、健脚なご利用者も参加していただいている。	定期的な防災対策が行われている。大震災等の非常時の複合的な対応も含め、普段より顔の見える協力体制、リスク管理がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・居室訪問時の際の声掛け・ノックの徹底、トイレ誘導時の声掛けの配慮(言葉使い・同目線)をしている。	理念のもと自立支援を基本に職員教育を行い、利用者のプライバシーを尊重した取り組みを行っている。個々の生活歴を尊重した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご利用者への声掛けを忘れず会話の中から思いを察知できるように気をつけている。思いや希望は、できるだけかなうように他職員とも共有できるように情報交換している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に過ごしているご利用者が多く自発的に希望を訴えることは殆ど無い。行事等がある日は、お誘いしてみても同意を頂いたら外出や買い物、イベント参加をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選んで着替えてくださるご利用者も居ますのでご自身の意向を大事にしている。ご自分で選べないご利用者は当日の気温に配慮し色・柄に注意しコーディネートできるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	駆け込んで食べてしまうようなご利用者には、レストランのコース方式で少量づつ小皿にもって差し上げたり無地の食器で混乱を招かないようにしたりとご利用者がご自身で食べられるように工夫している。	自立支援の視点から買い出しできる人には職員と共に外出し、食事の盛り付け等出来ることに着目し職員が促しを行っている。個別の状況により皿の色や素材等も考慮し対応、配膳等にも配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を好まない・飲み込み力の弱いご利用者には、主食を粥食にしたり水ゼリーを作りスムーズに摂れるような支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食毎に励行。各ご利用者の口腔や口臭等を把握し歯間ブラシ・ハミガキティッシュ・洗口液を使用している。セルフケアが、不十分なご利用者は、自身でハブラシ後、職員がアフターケアを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は、できるだけトイレで行えるよう日中は尿意・便意が無い重度のご利用者も定期的にトイレに誘導している。	チェック表などを活用しながら利用者の生活リズムの確認と対応を行っている。乳製品の摂取等、できるだけ下剤等を使わずトイレ利用に繋がるよう、積極的にスタッフ全体で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	心身の状況もあり便秘の把握はできるが予防までは困難な状況である。個々の便秘の状況も把握困難なこともあり酸化マグネシウムを排泄状況にあわせ調節して内服しているご利用者もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、午後の3時以降としている。個々、曜日は概ね決めていますが、ご利用者の状況や拒否することもあるので曜日・時間をずらし柔軟に支援している。入浴拒否のあるご利用者は、表情や声掛けのタイミングをみてお話ししている。	週3回の入浴提供を行っており、季節ごとの入浴の楽しみとして、入浴剤の利用等の試みが行われている。皮膚状態の確認や、肌に優しい石鹸の利用など、細やかな配慮がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室・フロア内を行き来したり自由に過ごしていただいている。自由に動いているご利用者は見守りで静観し行動制限するような声掛けはしないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の介護記録のファイルにご利用者の薬事情報が入っている。内服の変更・新しい薬が、出た場合は、ホーム長より説明を受け業務日誌に記入し職員が周知するようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとに花見・花火大会・日本人形の展示会民謡大会等に参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好天時は、散歩や買い物へと出かけている。落ち着かなくなるご利用者は、気分転換の為に外に出るようにしている。ご家族の協力の下で外食やお盆にご家族との団樂のために外出しているご利用者もいる。	道路を渡った向かい側にお店があり、利用者の希望により一緒に食材などの購入に出かけている。恒例の民謡大会等、楽しみにしている利用者がおり毎年参加されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持してご利用者は居ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りができるご利用者はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花・写真・絵画を提示、天窓により自然光を取り入れ光の明るさ・温かさを肌で感じてもらっている。気温の変化に注意を冷暖房を(暖房は、床暖房)こまめに調節している。冬季は乾燥に注意し加湿器を使用している。	居室の入り口等に各々展示物を飾っており個性がみられている。中庭を囲むように建物が立っており、紅葉・干し柿等が季節感を演出している。天井が高く、空気の流れも穏やかであり温かなゆっくりした時間の流れを感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席だけでなくソファがフローアールや窓下におかれ1人でくつろがれているご利用者がいる。又、テーブル席も配置替えをしたりして談笑できたり落ちついて過ごされる場所の提供をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた物を持ち込むように説明させていただいている。居室で過ごされることが多いご利用者は、テレビや新聞を読んだり花を飾ったりしている居室もある。	自宅で利用していた物等を持ち込まれており、各部屋により雰囲気の違いがみられる。扉等、普通に開閉することが出来る状態であり開放的な様子がみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行状態に合わせ杖・シルバーカーを使用している。フローアールはバリアフリー、浴室、トイレ、表札等の明示がされているので迷うことなく移動できている		